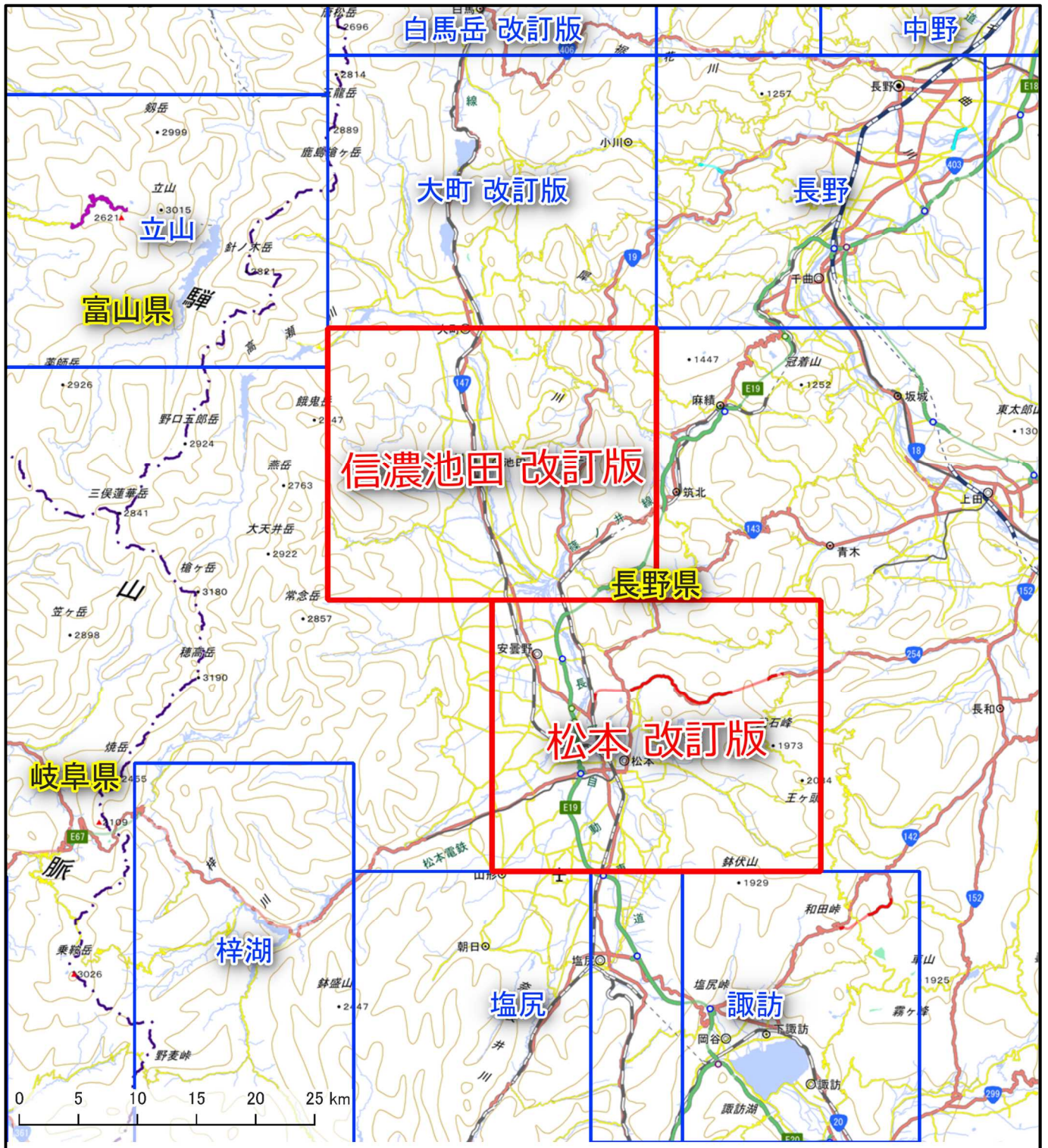


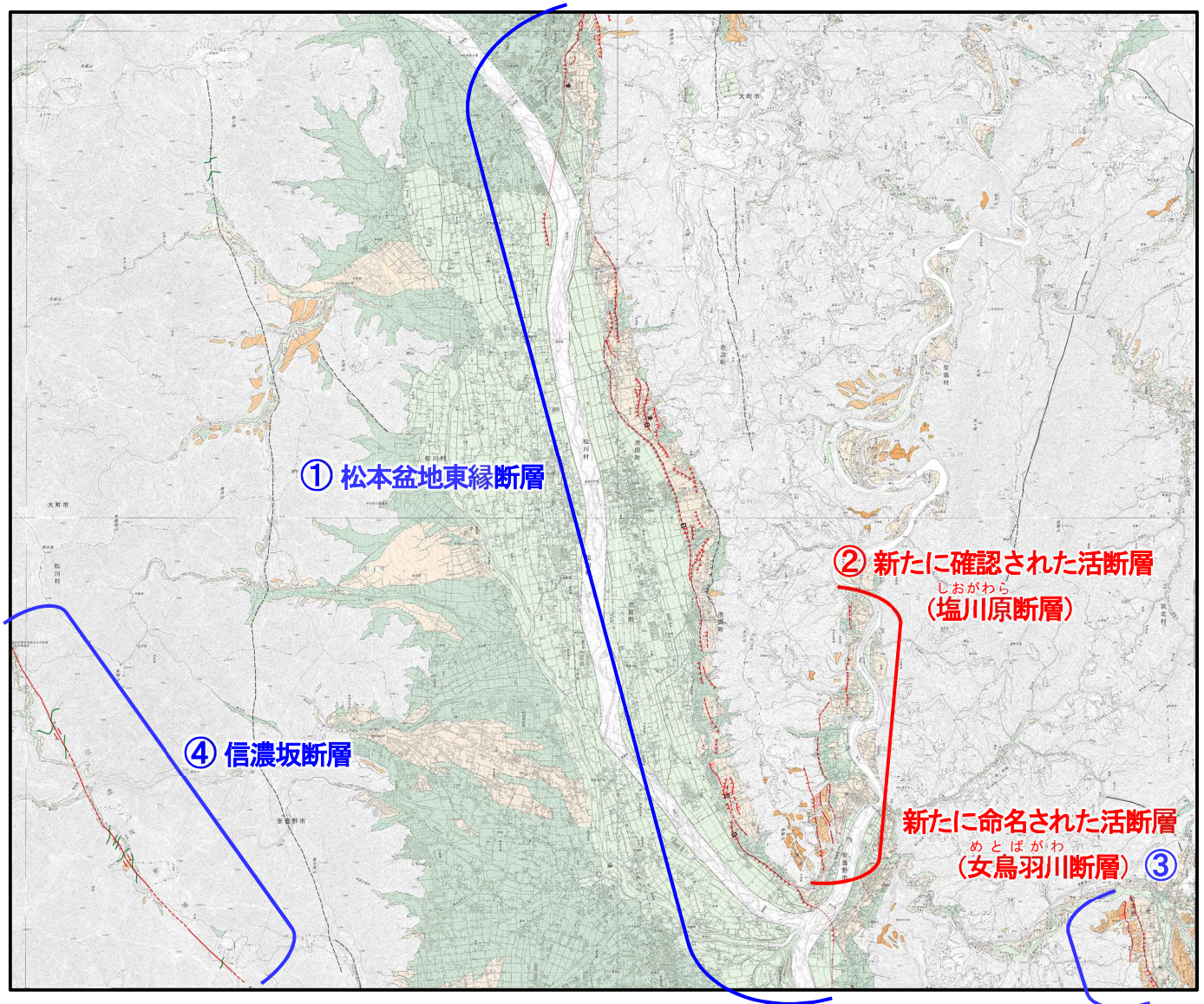
1:25,000 活断層図 糸魚川-静岡構造線断層帯とその周辺 「信濃池田 改訂版」 「松本 改訂版」



公開図郭       整備済図郭

# 概要

## 1. 1:25,000 活断層図 「信濃池田 改訂版」



## 2. 今回の調査で得られたこと

「<sup>しなのいけだ</sup>信濃池田 改訂版」図葉には、<sup>まつもとぼんちとうえん</sup>松本盆地東縁断層約 19km、<sup>しおがわら</sup>新たに確認された活断層(塩川原断層)約 5km、<sup>めとぼがわ</sup>新たに命名された活断層(女鳥羽川断層)約 2km、<sup>しなのさか</sup>信濃坂断層約 8km と、その他の推定活断層を表示しています。

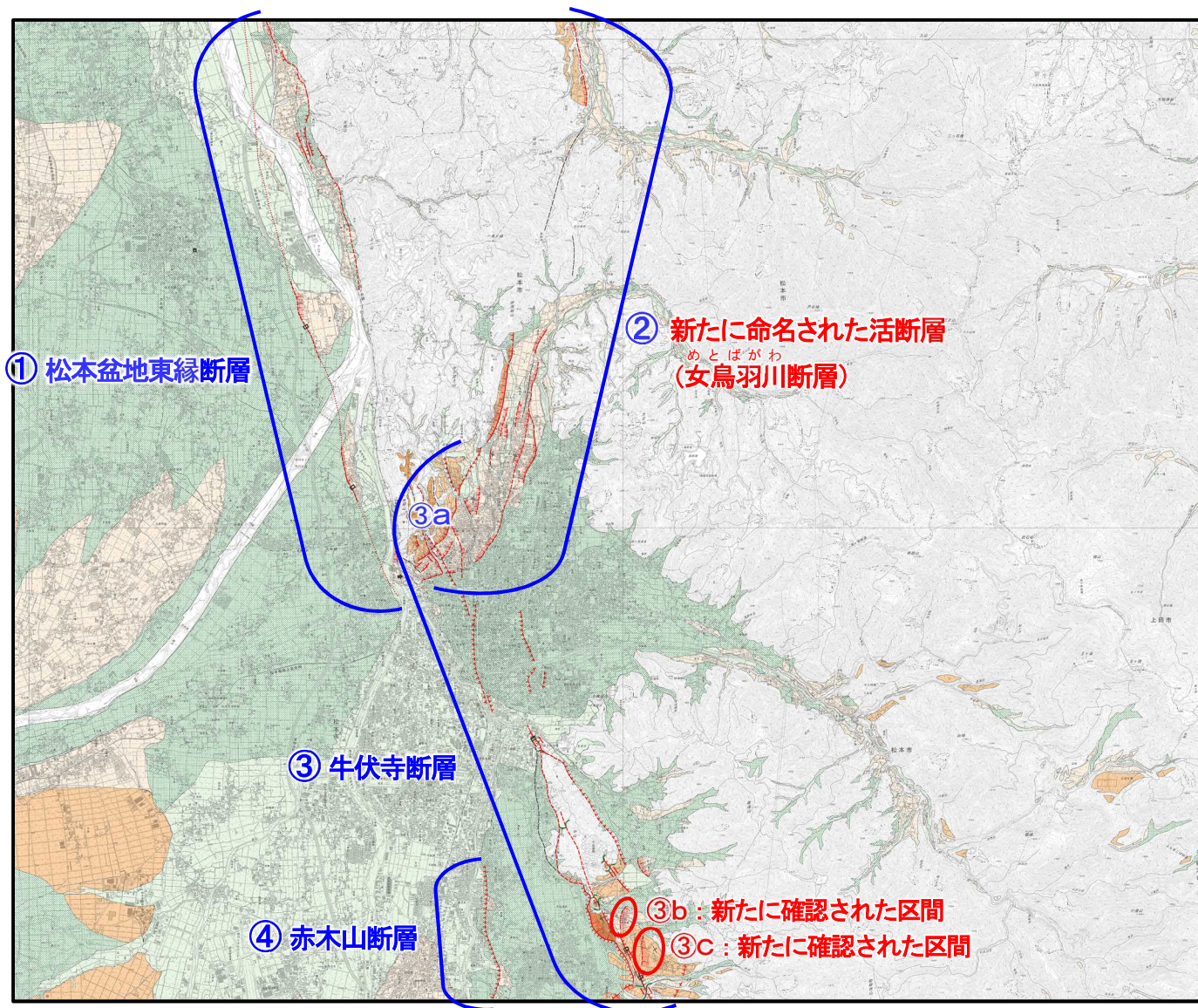
表示した活断層は、以下のとおりです。

番号	断層名	断層について
①	まつもとぼんちとうえん 松本盆地東縁断層	<p>大町市松崎（図郭北端）から安曇野市宮中（図郭南端）まで、北北西－南南東方向に延びる、図葉内の長さ約 19km の活断層です。</p> <p>図郭北端から南下した断層線は、大町市潤田付近において、高瀬川の右岸側（西側）から左岸側（東側）に位置を変えています。本断層は大局的には東側隆起（西側落ち）を示していますが、一部は相対的に西側隆起（東側落ち）を示しています。</p> <p>個々の断層では縦ずれ*変位が明瞭ですが、変動地形の雁行*配列などから横ずれ*変位を持つ可能性があります。</p>
②	新たに確認された 活断層 しおがわ (塩川原断層)	<p>今回の調査で新たに確認された活断層であり、断層南端部付近の集落の名称から新たに塩川原断層と命名しました。</p> <p>北安曇郡池田町と安曇野市の境界に位置する大穴山から安曇野市の押野山にかけての山地と段丘面の境界に沿って、安曇野市明科南陸郷から同市明科七貴まで、一部に縦ずれ*及び活撓曲*を伴いながら、ほぼ南北に延びる、長さ約 5km の活断層です。</p>
③	新たに命名された 活断層 めとばがわ (女鳥羽川断層)	<p>今回の調査で新たに命名された活断層です。松本市芥田原から同市板場（図郭南端）にかけて、相対的に西側隆起（東側落ち）で、一部に縦ずれ*及び活撓曲*を伴う、図葉内の長さ約 2km の活断層であり、南側に隣接する「松本 改訂版」図葉の松本市宮湊付近まで延びています。</p> <p>女鳥羽川断層は、「松本 改訂版」図葉の初版図においては松本盆地東縁断層に含まれていましたが、傾斜の方向が異なり、また推定活断層区間を含めれば、長さが約 13km と長いことが判明したため、本調査においては区別することとしました。</p> <p>「松本 改訂版」の松本市街地付近の東側を本断層に沿って流れる河川の名称から新たに女鳥羽川断層と命名しました。</p>
④	しなのざか 信濃坂断層	<p>安曇野市の中房温泉付近（図郭西端）から同市の大峠の南東まで、北西－南東方向に延びる、図葉内の長さ約 8km の活断層です。左横ずれ*を主体とし一部に縦ずれ*変位を伴っています。</p>

\*印は、参考資料2の「7.用語の説明」を参照

# 概要

## 1. 1:25,000 活断層図 「松本 改訂版」



## 2. 今回の調査で得られたこと

「<sup>まつもと</sup>松本 <sup>まつもとぼんちとうえん</sup>改訂版」図葉には、<sup>まつもと</sup>松本盆地東縁断層約11km、新たに命名された活断層(めとばがわ(女鳥羽川断層))約11km、<sup>ごかくじ</sup>牛伏寺断層約11km、<sup>あかぎやま</sup>赤木山断層約3kmを表示しています。

表示した活断層は、以下のとおりです。

番号	断層名	断層について
①	<small>まつもとぼんちとうえん</small> 松本盆地東縁断層	<p>断層について</p> <p><small>あかしなひかる</small> 安曇野市明科光付近（<small>みやぶちほんむら</small> 図郭北端）から松本市宮渕本村付近まで、並走する断層を伴いながら全体的に北北西－南南東方向に延びる、<small>みやぶちほんむら</small> 図葉内の長さ約 11km の活断層です。</p> <p>安曇野市明科光付近から松本市宮渕本村付近に至る断層線は活撓曲*を伴う一部の区間を除き伏在部となっている一方、この東側には<small>さいがわ</small> 犀川右岸の山麓線に沿う安曇野市明科光付近から松本市<small>しもだ</small> 下田付近にかけて、活断層が縦ずれ*変位を伴って一部雁行*しながら延びています。</p>
②	<u>新たに命名された活断層</u> <small>めとぼがわ</small> （女鳥羽川断層）	<p>今回の調査で新たに命名された活断層です。<small>さわや</small> 松本市沢屋（<small>みやぶち</small> 図郭北端）から同市宮渕付近まで、北北東－南南西方向に延びる、<small>みやぶち</small> 図葉内の長さ約 11km の活断層で、松本市街地付近の東側を本断層に沿って流れる河川の名称から新たに女鳥羽川断層と命名しました。</p> <p>松本市沢屋から同市<small>やまんだ</small> 矢満田付近までは一部に活撓曲*を伴い、松本市<small>だいもん</small> 大門から同市<small>うまかいとうげ</small> 馬飼峠付近までは推定活断層となっており、同市<small>いぶかじょうやま</small> 伊深城山から松本市街地にかけては市街地北方の段丘面及び扇状地上に、多数の断層崖や活撓曲*崖が分布しています。</p> <p><u>女鳥羽川断層は、初版図においては松本盆地東縁断層に含められていましたが、傾斜の方向が異なり、また推定活断層区間を含めれば北側に隣接する「信濃池田改訂版」<small>さいたばら</small> 図葉の松本市齊田原から連続し、長さが約 13km と長いことが判明したため、本調査においては区別することとしました。</u></p> <p>なお、女鳥羽川断層の南部付近において、女鳥羽川断層と交差する北北西－南南東方向の断層線（<small>さくちゅう</small> 図中③ a）は、活断層の走向の違いから牛伏寺断層に含めました。</p>

<p>③</p>	<p>牛伏寺断層 ごふくじ</p>	<p>松本市城山<small>じょうやま</small>から同市並柳<small>なみやなぎ</small>を通り、同市の大久保山<small>おおくぼやま</small>付近（図郭南端）まで、北西—南東方向に延びる、図葉内の長さ約 11km の活断層です。</p> <p>松本市城山、同市蟻ヶ崎<small>ありがさき</small>付近では段丘面上に、松本城付近から同市庄内<small>しょうない</small>及び筑摩<small>つかま</small>にかけては沖積低地上に、東上がりの縦ずれ*変位が見られ、松本市並柳から同市の中山<small>なかやま</small>を経て大久保山にかけては、縦ずれ*変位に加えて明瞭な左横ずれ*変位が確認できます。</p> <p>また、松本市の中山や同市中山台<small>なかやまだい</small>の段丘を挟んで主断層の東西両縁に複数の活断層が延びています。中山丘陵東縁では、主に南西側隆起の縦ずれ*変位が見られる一方、丘陵の西側には東側隆起の縦ずれ*変位が見られ、その断層線上では左横ずれ*変位も見られます。</p> <p><u>図中③b 区間（松本市南中島<small>みなみなかじま</small>付近）、③c 区間（松本市古屋敷<small>ふるやしき</small>付近）において、ほぼ南北方向の比較的短い（長さ約 0.5km）の活撓曲*が新たに確認されました。</u></p>
<p>④</p>	<p>赤木山断層 あかぎやま</p>	<p>松本市寿北<small>ことぶきた</small>から同市寿<small>ことぶき</small>（図郭南端）まで、ほぼ南北方向に延びる、図葉内の長さ約 3km の相対的に東側隆起（西側落ち）の縦ずれ*変位を主体とする活断層です。</p>

\*印は、参考資料 2 の「7. 用語の説明」を参照